

# 研究に挑戦する皆さんへ

## — 研究倫理の大切さと生成AIとの向き合い方 —

大学での学びは、高校までの学習とは大きく異なります。その中でも「研究」は、大学での学びの大きな柱の一つです。文部科学省は、学術研究を「研究者の自由な発想と研究意欲を源泉として行われる知的創造活動であり、人間の精神生活を構成する要素としてそれ自体文化的価値を有するもの」と説明しています。つまり研究とは、単に新しい知識を生み出すためだけの活動ではなく、人類の文化や知の営みそのものを支える大切な活動なのです。

そのような研究を支える上で、最も重要な基盤となるのが「研究倫理」です。研究倫理とは、研究を行う際に守るべき考え方や姿勢のことを指します。例えば、データを正確に扱うこと、他人の成果を正しく引用すること、結果を都合よく改ざんしないことなどが含まれます。これらは難しい規則というよりも、「研究を信頼できるものにするための当たり前の約束事」と考えるとよいでしょう。

研究は、一人で完結するものではありません。過去の研究成果の上に新しい研究が積み重ねられ、世界中の研究者が互いの成果を信頼し合うことで成り立っています。もし恣意的に作られたデータや他から盗用したデータが混ざってしまえば、その信頼は簡単に崩れてしまいます。だからこそ、研究倫理は研究者だけでなく、研究を学び始めた皆さん一人ひとりにとっても大切なものなのです。

近年、皆さんの学習や研究を取り巻く環境は大きく変化しています。その代表例が生成AIの登場です。文章の作成や要約、アイデア出しなど、生成AIは非常に便利なツールであり、使い方によっては学びを深める助けになります。しかし、その一方で注意すべき点もあります。

例えば、生成AIが作成した文章をそのまま自分のレポートとして提出することは、自分の考えを示したことにはなりません。また、生成AIが出力した内容には、誤りや根拠の曖昧な情報が含まれることもあります。生成AIは「考える主体」ではなく、あくまで道具であることを理解することが重要です。参考資料として活用する場合でも、内容を自分で確認し、自分の言葉で整理する姿勢が求められます。

研究倫理とは、「禁止事項を守るためのルール」ではなく、「自由な発想と創造性を守るための土台」です。正しい姿勢で研究に向き合うことで、皆さん自身の学びはより深く、より豊かなものになります。大学での学びを通して、知識だけでなく、研究に向き合う誠実さや責任感も身につけていってください。それが、これからの社会で活躍するための大きな力となるはずです。

琉球大学理事・副学長（研究・地域連携担当）

名嘉村盛和

